



在マレーシア日本国大使館付属ジョホール日本人学校

学校便り Respect



令和4年3月12日

No. 13

ジョホール日本人学校 令和3年度 第25回卒業式 学校長式辞

小学部6年の皆さん、中学部3年の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、新型コロナウイルスという厳しい環境にも負けることなく勉学に励み、本日、晴れて小学校6年間、中学校3年間の課程を修了することが出来ました。その努力をここにたたえます。

皆さんが新しい世界へと旅立つ三月を日本では別名、『弥生』とよびます。これは、草木が“弥（いよいよ）生（おい）茂るとき”という意味です。厳しい冬が終わり、春の訪れとともに野や山に、草木が芽吹く様子を表す、美しい日本の言葉だと思います。まさに今の皆さん方は、この弥生のように、大きく未来へと育ちゆく若木のような存在ではないでしょうか。

そのような皆さんに、卒業のはなむけとして、私が、今年のお正月に出会った、2つの言葉を送ります。1つ目は、

「あなたの人生は、あなただけのものではありません。」

という言葉です。この言葉は、一般的には、

『あなたが今まで大きくなれたのは、たくさんの人たちが手をかけ、心をくだいて育ててくれたからだ。その恩を忘れてはいけません。』

という意味でつかわれることが多いと思います。確かに皆さんは、今日まで、保護者の皆様をはじめ、多くの人たちに大切に育てられてきました。だから皆さんは、今日の日を迎えることができたのです。これは紛れもない事実です。しかし、私が出会ったこの言葉は、別の意味でつかわれていました。それは、

『あなたは、これからの人生でたくさんの人たちと出会っていく。あなたには、その人たちを幸せにできる力が備わっている。あなたの人生は、自分だけのものではなく、あなたがこれから幸せにできる人のものでもあるのです。』

という考え方でした。とても未来志向で、前向きな考え方だと思いました。私が皆さんにいつもお話しする、“自分も周りも良くする生き方”と同じ意味であると思います。

人が一生のうちに出会う人は、どのくらいいると思いますか。個人差はありますが、一説では、約3万人であるといわれています。その3万人のなかで、学校や職場が同じで近い関係になる人が約3千人、その3千人の中で親しく会話するようになるのは約3百人、その3百人の中で友人と呼べる人が約30人、その30人中で生涯の親友と呼べる人が約3人だそうです。人生80年とすると約3万日ですので、平均すると1日1人の新しい人と出会っていることになります。

あなたは、その3万人の人たちに大小はあると思いますが何かしらの影響を与える存在なのです。その影響が、悪いものでは、出会わない方がよいことになってしまいます。また、何の影響も与えないのは、寂しくもったいない気がします。あなたとの出会いによって、相手が楽しくなったり、悩みが解決したり、気持ちが前向きになったりしてくれたら、それは素晴らしいことだと思いませんか。それができる人は、自分のためだけに生きる人の何倍も豊かな人生を送ることができていると思います。

そのことを、1856年、アメリカで生まれた教育者で、作家のBooker T. Washington という人は、こう言っています。これが皆さんに贈る、2つ目の言葉です。



The happiest people are those who do the most for others. The most miserable are those who do the least. – Booker T. Washington

幸せとは、ある状態になることを指す言葉ではありません。どのような状態になろうと、それを乗り越えていけることが本当の幸せです。つまり、あなたが人を幸福にするということは、自分の周りの人たちを支え、その人たちとともに、苦楽を共にし、厳しい現実の山を登って、お互いを高めあっていく1連のプロセスを共に過ごすことなのです。

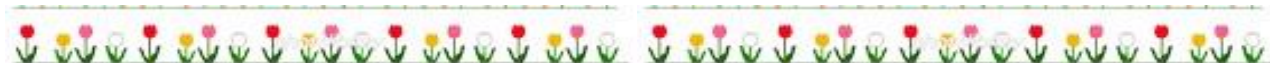
本日は、新型コロナウイルスの影響による厳しい制限で、残念ながらご来賓の皆様のご臨席を賜ることができませんでした。しかし、失礼を顧みず言うならば、立派な卒業式とは参加者の人数で決まるものではありません。卒業する一人一人の卒業生の胸の中の決意の深さ、志の大きさに決まるものなのです。4月から皆さんは、1つ上級の学校へと進学します。そこで皆さんが、光り輝く存在となることが、今日の卒業式が成功であったことの証となるのです。

保護者の皆様、お子様のご卒業、まことにめでとうございます。長年にわたり、本校の教育に対しまして、ご理解ご協力を頂戴し、教職員一同心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。本日、ジョホール日本人学校より旅立つ5名の児童生徒たちは、今後、それぞれが新しい道へと進んでまいります。一歩自立への階段をのぼり始めた5名ではございますが、まだまだ、保護者の皆様のお力添えが必要な場面もございます。引き続きご指導よろしくお願いいたします。

明日以降、会うことが難しい人もできます。しかし、今は、様々な方法で、世界の人たちと一瞬のうちにつながる時代です。この、コロナ禍という厳しい状況の中でのジョホール日本人学校での出会いを生涯の宝とし、友情を保ち続けていってください。そうすれば皆さんは、世界に友情の輪を大きく広げることができるようになるのです。先ほども申したように、人にとって最大の財産は、お金や地位ではなく、お互いを高めあえる人間関係です。今日は、皆さんにとって、お別れの日ではありますが、未来に向けて新しい友情をはぐくんでゆく、新しいスタートの日でもあるのです。皆さんのこれからの人生が、光り輝くものとなることを強く願い、学校長式辞といたします。

令和4年3月12日

ジョホール日本人学校 校長 川口 浩



◎ 保護者の皆様へ

本年度は、新学期当初2週間ほど、登校での対面授業が実施できましたが、5月に入り、登校が禁止となり、オンライン授業へと切り替えました。約半年間、オンライン授業が継続し、登校再開が許されたのは、11月に入ってからです。オンライン授業期間は、各ご家庭で、通信環境の整備やお子様の課題の確認等、保護者の皆様には多大なご協力を頂戴し、心より感謝申し上げます。

11月以降の、登校再開後も教育省の通達で、保護者の皆様に学校を訪問していただくことはかなわず、直接、行事等を参観していただくことはできませんでした。そのような中、いくつかの行事をオンラインにて、ライブ中継や動画配信させていただいた際には、多くの皆様に御視聴いただきありがとうございました。2月以降、マレーシア国内も新型コロナウイルスの感染が拡大し、学校関係者からも感染者や濃厚接触者が連続し、一時的にオンライン授業等の措置を取らせていただきました。その際には、ご理解ご協力を頂戴しましたことを、改めて感謝申し上げます。

新型コロナウイルスに翻弄された1年間でございましたが、本日、無事に卒業式、修了式、お別れ会、離任式を挙げて、本年度の教育活動の区切りとすることができましたことをご報告申し上げるとともに、保護者の皆様方の、学校に対する多大なご理解ご協力に対しまして、あらためて教職員一同、心から感謝の意を表させていただきます。

現時点での新年度の予定は、学校HPに掲載する年間行事予定(案)をご参照ください。特に、4月当初の予定は、新規派遣教員の赴任が文部科学省の予定通り行われた場合の日程ですので、変更の可能性もあるとご理解ください。変更の場合は、わかり次第学校メール等でお知らせいたします。また、各行事等も、教育省のSOPにより本年度同様、大きく変更される場合がございます。その際は、ご理解ご協力をお願いいたします。